

# サロンの あべの

Vol.105

## サロン・あべの2月の出会い

サロン・あべの2月の出会いは、95年2月18日(土)の午後1時過ぎから、「手織適塾S A O R I」の城みさをさんにおいていただき、「さをり織り」の原点から障害者問題に至るまで、熱っぽく語っていただいた。

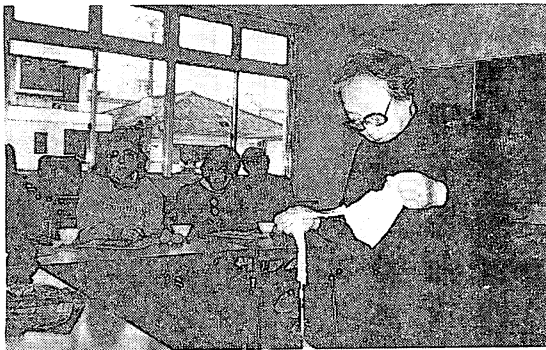
### 「さをり織り」の原点

戦前、結婚後間もない頃のことである。花を生けようと近くの林に入り、三本の山グミの枝を切って帰り、生けようとしたがうまく行かない。型にはめようとする生け花と、自然の美しさを生かそうとすることの矛盾に突き当たったのだ。その後戦

## さをり織りと障害者

争になり、疎開した山の中で、従来とは違う、自然の美しさを生かす本当の生け花を目指し、ある程度完成させたのである。やがて大阪に戻り、三国ヶ丘高校で生け花を教えるようになった。

一番おもしろい、好きな枝を



こうして端切れも素材に…

一本選び、その枝の一番美しい向きと角度を探し生ける。そしてその枝を生かすように他の枝を生けて行く。指導はそれだけである。美しいものは、生まれつき分かるものである。本人の感性に任せ、持っているものを目覚めさせるのである。決して教えるのではない。しかし、一度習ったものというのは、なかなか取れないもので、つい型にはめてしまう自分に、そして、教育に腹が立った。

昭和29年、病気のため生け花をやめ、以後16年間、主婦に専念することになる。

手織りから「さをり織り」へ

当時84歳だった実母の願いをかなえようと機を自作。大喜び

で機に向かう実母から、織りに  
は女の喜び、楽しみがあること  
を実感した。自らも手織りを始  
めると、すぐにおもしろい作品  
が出来た。機械とは違う、機械  
に出来ないことをやるつもりで、  
自由自在に織っていった。

25年前、作品を家の中だけで  
置いておくのはもったいないと、  
世に問うことを息子に勧められ  
た。心齋橋の「丸山」というお  
店に、勇気をもって飛び込み、  
売ってもらえることになった。  
ブランド名が必要になり、「み  
さを織り」を少し変えて、「さ  
をり織り」が誕生した。

作品が売れることよりも、織  
ることの方が、もっと楽しいと  
いうわけで、人にも教え始める。  
本人の好きなように織って行く  
と、結果として良い作品が出来  
るのである。教えない教え方、  
引き出す教え方を実践。神戸そ  
ごうでの実演や、個展を開くま  
でになる。

## お 知 ら せ

サロン・あべの3月の出会い

日時 4月15日(土) 午後1時~4時  
場所 育徳コミュニティセンター研修室

(阿倍野区阪南町5-15-28)

スロープ、身障者用トイレ有り)

テーマ 「ハンディキャップ者と住居」

パネラー

Design Studio AKATANI

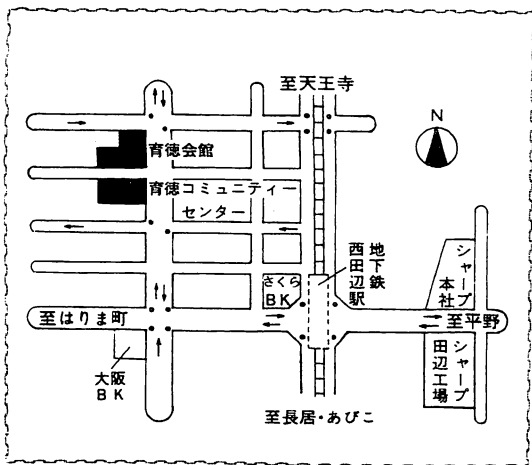
赤谷吉信氏

(大阪青山短期大学非常勤講師)

会費なし

お申し込み・お問い合わせ先

☎06(691)1028 (富田慶子)



「さをり織り」と障害者  
自由自在に織る。これが健常  
者には難しい。長い間学校など  
で教育を受けてきた結果、概念  
破り、常識破りが出来なくなっ  
ているのである。しかし、知的  
障害の人は、常識や固定概念に  
汚れてはいない。教えるのでは  
なく、自由奔放に織らせるので  
ある。そうすれば、心から楽し  
そうに織り、すばらしい作品が

出来る。美に対する感性は、生  
まれつきもっているのである。  
感想・質問  
参加者が少なかつたこともあ  
り、最後は、お持ちいただいた  
作品を、手にとったり、羽織っ  
てみると、まるでファッショ  
ンショーのようであった。  
参加者からの感想や質問にも、  
丁寧な答えをいただいた。主な

ものを紹介すると…。「年をと  
ればとるほど、今まで見えな  
かったのが見えてくる。趣味を  
もつこと」。「さをり織りは、  
ライフワークに最適」。「荒々  
しくて、上品で、派手で、地味。  
この四つの矛盾を団子に丸めて  
一つにしたものが、さをり織り  
である」等々。

(上平幸雄)

# 「みんながダイヤモンド」 わたし革命II

「みんながダイヤモンド」を読んで

何カ月前に、うちへ遊びにこられた方がしていたマフラーがあまりによかったので、いまだにそのマフラーを忘れることができます。単なるマフラーというよりもまさに芸術品としかいえないのです。老若男女の区別なく、身につけた人すべてを魅力的に見せてしまうであろうと思われる織物。本物とはこういうものをいうのでしょうか。

そのマフラーは、知的障害をもつ人によって織られたマフラーということでした。それがさをり織りでした。

まさに須田剋太氏が言われたように「荒々しくて上品で派手で地味」。

城みさをさんは自らのことを「坑夫」にたとえて言う。

「障害というレッテルの厚い厚い土を除けば、下にキラリと光る宝石が見えた」と。

「即ち幼児を残している彼たちは常に天才である」「抜け出して達人になれた人と同じものをもっている彼たち」。

一九八一年の夏、金剛コロニーの彼女たちとの出会いが、城みさをさんを狂ったように、この活動へ駆りたてていかれた。

織りという手段を通して障害者にも健康者にも生きることのすばらしさ、満足さ、喜びを表現させる。五七才に織りを始めて八一才になる現在までの二〇年余り、さをり織りは日本のみならず世界中にひろまっていたのです。

(M・I)



さをりと感動の再会

心齋橋の大丸百貨店から南八十mくらいいった東側、清水町と周防町の間、和洋の逸品を売る洋品屋さんがあった。そのウィンドーに並ぶ品物は、箱火鉢があった

り、セーターがあったり、額、屏風が、イヤリングやアクセサリーもあった。

他の店のものどちょっと違った味わい深いものが選り抜かれた、これらの品物を見るのが好きでよく見ていた。ただ見てるだけ。中に入ったことはない。

そんなあるとき、すばらしいマフラーがウィンドーに出た。キューヴの絵画を思わせる色調と原始美術の原初的様態を合わせた正に芸術作品が並んだのである。

この店の商品はどれもみな高根の花、このマフラーも押して知るべし。芸術作品は観賞するものとあきらめた。

あれから二〇数年、すっかり忘れていたが、今日、それに出会った。

あのときの作品は城さんが織られた作品であったのか。

さをり織りのなんたるかを知らなかった私はびっくりした。むかしガラス越しでしか観られなかった作品に触れて、改めてそのすばらしい色調、風合いに感動した。

そして、今「城みさをさんからいただいたみんながダイヤモンドVを深読み」して感動と感激の二羽の鳥を得ました。

(O・I)

# 人と人、心と心のコミュニケーション

誠実ということ

いつも「サロン・あべの」紙をありがとうございます。ありがとうございます。

阪神大震災後、身近にその震災の恐ろしさを聞き、岡さんの書かれた「誠実ということ」の意味の重みもかみしめております。朝夕、震災地の方々の一日も早い復興を祈りおります。まことに天災の恐ろしさ、人間文明のむろさを教えられ、私たちの身代わりに犠牲となられた方々のことを忘れてはならぬと思っております。 R・T

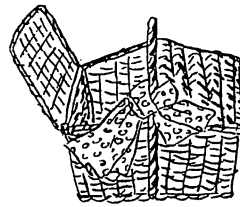
サロン紙を見て

やわらかい陽射しに心浮き立つ季節になりました。いつも、サロン紙をお送りくださり、ありがとうございます。

阪神大震災後の新年会で、どうしようか？と色々迷われたご様子でしたが、こんな時こそ開催され、心ゆるせる仲間のふれ合

いの大切さが一層強くお感じになったのではないのでしょうか？

頬をなでるやさしいそよ風に乗って、阿倍野名所旧跡いろはがるたの解説版を片手に散策したいと思っています。 秀 翠



心をとり返す

思いがけず、大雪（積雪五センチ）の横浜の三月初めとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

本日は、またサロン紙をお送り下さいまして誠に有り難うございました。

新年会のご様子、好評の阿倍野かるた他、楽しく拝読させていただきました。ところで、やはり印象的だったのは岡先

生のエッセイ、考えさせられることが沢山ありました。

震災によって失うものは人命、家屋、交通機関、職場など、貴重なものが多いのですが、心々をどうやってとり戻すかとなると、これほどむずかしいものはないようにも思えます。

ただ、地震直後に埋まった人々を助けるのは、結局身近かにいる近隣の人々の力によるところが多く、その後の物質面では、被害のなかった遠方からの助力が頼りであったと同じく、精神面でも近所の励まし合い、その後の遠方の友の電話や手紙が、そして専門家の助言が必要なのだと思います。 〃 出会い、ふれあい、助け合い〃のハサロン・あべのVの輪も「住んでいる地域の人々」と「離れた地域の人々」と、近くと遠く、複眼的に拡がれば…と思います。（実際に もう そうなっていると感じていますが…）

〃 天災は忘れた頃にやってくる〃という言葉は全く皮肉ですが、当たっていますね。 まだまだ、寒さと暖かさが交互に訪れ、体調をこわしやすい時期ですが、くれぐれもおからだ お大切に。 K・K

# 作る つくる 創る 河合恵子

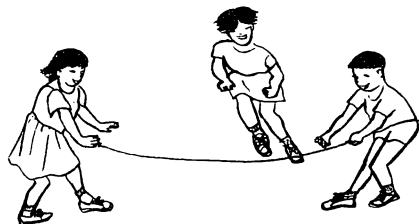
阪神カンバレ!

一月十七日午前五時四十六分、たまたま、西宮に帰っていた私はあの大地震を体験することとなった。幸い、両親は無事であったが、香櫛園の家の柱は傾き、地震直後の倒壊は免れたものの住み続けることは無理という状態。また家の周囲もいたるところで住宅やマンションが壊れ、塀が倒れ、地割れや崖崩れが見られた。避難の途中、目にしたのは建物や道路・交通網など人間の作り上げた巨大な建造物が一瞬のうちに崩れ去ってしまうはかなさ。しかし、そうしたものはまた、数年のうち再建され、きっと今まで以上に耐震性の高い、堅牢性ものに生まれ変わるで

あろうし、防火帯を兼ねた緑地の多い街が新たに生まれる・・・と思う。だが、五千四百人の人命、そして古い街並、貴重な文化財は二度と元には戻ることがない。谷崎潤一郎の旧宅が被害に遭い、また巡回中だったスイスのパウアーコレクションという中国陶磁の名品の多くに被害にあつたことなど新聞紙上で知ったときはとても寂しく思ったものです。

しかし、神戸元町でいち早く営業を再開した海文堂書店で学童に必要な品々を配布したり、絵画作品やコンサートのチャリティーを企画したり、或いは壁画作成のキャンペーンを行なっているということを知り、とても感激しました。もちろん、衣食住を十分に満たすことが必要な

ですが、心を潤すことに心を傾けている人々がいる。ココロハ、ツブレヘン、ツプサヘンと頑張っている。人々が互いに声を掛け合い、笑顔を向けて、他の人々を励まし、美術家は絵や彫刻などの作品で、音楽家は音楽を奏でることで、小説家は文章を著わすことでもっとも人と人々の心を慰めて下されば・・・と願う。



★どこかに人の心を清らかにするよう

どこかに人の心を清らかにするよう  
な寂しさはないか。打ちひしがれ、雨  
に濡れて上目づかいに睨(にら)みつ  
けるような寂しさではなく、たしかに  
慎みぶかく、降りつもる雪に装いの葉  
も落ち、空を突く高ぶった枝も折れて  
裸(はだか)になってしまった大きな  
樹のような寂しさはないか。

心に、光を与えるような寒さはない  
か。私の泥のような心が、凍てつく冷  
たさのなかで氷を結び、朝の光に映え  
て黒い宝石のように輝く瞬間(とき)  
はないか。まだ閉じていない傷口が冷  
やさされている間に腐敗を免れ、ひとの  
心の痛みを知る目や耳のような感覚器  
となり、私の身体のなかに良い場所を  
得ることはないか。

まわりは乾いた風ばかりだが、砂漠  
の砂をふくむ風に洗われて、ぬるぬる  
とした汚れた油に纏(まと)われるこ  
となく、まっすぐに空をみつめる岩肌  
のような心をもつことはできないか。

幸せだけが人の心を豊かにするのだ

ろうか。恵まれず、うつむきながら歩  
む毎日のなかで、心が豊かになること  
はないのか。自分の言葉を出すことも  
なく、黙ったまま気持ちを呑みこみ続  
けたとき、胸のなかで積もる言葉が甘  
い葡萄(ぶどう)酒のように香り始め  
ることはないのか。

小さな恨みや悪意も独りでいると大  
きくなりやすいから、それが小さなう  
ちに、つぶしてしまおう。小さな虫を  
ひとつひとつ指先で潰(つぶ)してい  
く残酷さで、私のなかの悪意を押しつ  
ぶすのだ。このたくさんの悪意の死骸  
(しかばね)は、いまは耐えられない  
臭いで私の心全体を覆っているが、や



がて心に咲く花の色を少しは鮮やかに  
してくれらるだろう。

幾日も幾晩も続く沈黙のなかで、私  
は、誰からのものともわからない声を  
聞く。独りでいることが、世界に背を  
向けることではなく、遠くはなれた、  
まだ生まれていない人びとも結びつ  
く、ひとつの準備となりますように。  
眠り、歩み、食べるといふ一つひとつ  
のことが、私の生きる基(もと)とい  
なり、いつかくる永い眠りに向かって  
しっかりとつながつていきますように。  
ひとりでいるということが、愛する  
ことができなかつた弱さからくるので  
はなく、より深く愛するために自ら引  
き受けた寂しさでありますように。

そして、こんど会うときは、泥のい  
っぱい貼りついた重い長ぐつを脱ぎ捨  
てて、柔らかく軽い裸足(はだし)の  
足音とともに、私は退屈していた無邪  
気な子どものように現れよう。短いけ  
れど楽しいひとときを、ともにわかち  
あうことができますように。(知)

# 高齢者と在宅介護 18

【いもと  
井元 ますみ  
真澄】

と続いています。

2. パンフレット等  
(リーフレット、チラシ等も含む)

## 四、高齢者に対する広報活動

大阪府下における実態調査より(4)

### 《Ⅲ 研究の結果》

今回より、高齢者保健福祉サービスに関する広報活動の種類別の集計結果を紹介していきます。

#### 1. 広報紙

まず、「広報紙」についての結果は、以下のようになっています。

それぞれの機関が担当する高齢者保健福祉サービス情報をどのような形態で広報紙に掲載しているかをたずねると(複数回答)、

「市町村が発行している広報紙に掲載」が七二・二%と、最も割合が高くなっています。

つまり、市政だよりなどに掲載するという方法が最もポピュラーであるといえます。「機

関独自で広報紙を発行」しているのは四五・

二%と、半数弱になっています。「他機関の

広報紙に掲載」七・八%、「その他」九・〇

%との結果です。

以上の結果を機関別にみると、「機関独自

で広報紙を発行」している割合は「社協」と

「保健所」で高く、「市町村発行のものに掲載」

しているのは、当然ながら「市町村老人

福祉担当と保健担当」というように、違いが

みられます。

広報紙の配布方法は(複数回答)、「自治

会より配布」するのが六四・〇%で最も多く、

さらに、「窓口にも置いている」が六〇・五

%となっています。また、「その他」も四一・

二%あり、業者委託や、回覧板、他機関窓口

への配布などがみられます。

また、保健福祉の情報を広報紙へ掲載した

回数については、一年間で「五回未満」が最

も多く五一・六%す、「五回から一〇回」一

九・四%、「一〇回から二〇回」二五・八%

パンフレットの発行・掲載形態は(複数回

答)、広報紙とは異なり、「機関独自で発行

している」が七七・三%と、八割近くを占め

ています。他の項目の割合は低く、「複数の

機関で発行している」が二四・〇%、「市町

村発行のものに掲載している」一二・〇%、

「他機関発行のものに掲載している」九・三

%となっています。

パンフレットの活用場面は、「相談窓口で、

相談者に対して手渡す」が七一・一%、「相

談窓口においてあり、誰でも自由に持ち帰る

ことができる」が六九・七%と、高い割合を

示しています。また、「老人福祉センターや

公民館などの公的機関に置いてあり、持ち帰

りが可能」も五二・六%となっていることか

ら、パンフレットは、保健福祉関係機関の窓

口で手に入ることが多いのがわかります。そ

れ以外では、「全高齢者世帯に配布」五・三

%、「必要とされる世帯に配布」四三・四%

となっており、高齢者宅への直接配布もみら

れます。

## 美智子のこんな話

岸田 美智子



ヘルパー制度は毎日使える制度になりますよ!?

今まで厚生省では、ゴールドプランでホームヘルパーを十万人にするという計画でしたが、高齢化社会で介護問題が非常に叫

ばれてきたなかで、九五年度から新ゴールドプランとして、ヘルパー数を二〇〇〇年までに十七万人にすると言っています。九四年度ではヘルパー数は五万九千人です。五年間で三倍になる予定なのです。現在は、ホームヘルパーといえは週に二回ぐらいで、一回につき二時間ぐらいが現状のようですから、単純に考えて三倍になるので、週五、六日は来てもらえるようになるということなのです。

日曜日の派遣はまだ実施されていませんが、平日はこれでほぼ毎日来てもらえるようになる予定だと考えられます。でも、これはあくまでも厚生省の方針で、各自治体によっては非常に差が出るのが考えられます。各地域でそれぞれの障害者が、介護が必要な老人たちと一緒にあって要求して

いかなければ実現できないと思われれます。東京都の東久留米市や田無市では、九三年度から重度障害者に対して、一日十二時間、三六五日のホームヘルパーの派遣を行っています。また秋田県の鷹栖町では、巡回型のヘルパーですが、高齢者に対して一日二四時間のヘルパーを派遣しているそうです。これは、九五年度から厚生省が予算化したそうですので、全国の自治体に広がっていくと思います。

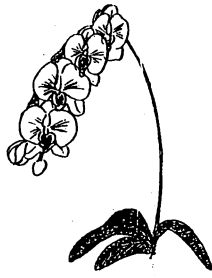
このように、ホームヘルパー制度はどんどん変わりつつあります。

これまでホームヘルパーといえは、家事援助制度(掃除・洗濯・食事)で、トイレ介護やお風呂介護、食事介護などの介護制度としては機能してきませんでした。

でも、これからは、どんどん介護制度としても機能していくて欲しいものです。

このようなことが、今施設で暮らしている障害者の人たちも利用できるようなになればなあと思っています。

例えば、施設からお盆や正月など家に帰った時に、現在は利用できませんが、このホームヘルパー制度を利用できるようにな



## サロンの絵葉書

「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。

ちよっとした近況、お知らせや季節のごあいさつなどにどうぞ。一セット五枚組 ¥150-



ると、施設障害者の方々がほんとうに家に帰りがよくなると思います。

このようなことを含めて、地域のホームヘルパー制度はぜひ充実させていきたいものです。みんなで頑張っていきましょう！

「ホープのつどい」

さまざまな春の嵐が通り過ぎた平成七年三月十日(金)～十一日(土)、大阪市身体障害者福祉作業所センター「ホープのつどい」の第四回展示会が早川福祉会館「大阪市東住吉区南田辺一―九―二八」四階で開催されました。

ゆつたりとしたホールでは、絵更紗作品コーナー、機織り作品コーナー、春の雰囲気あふれる華道作品コーナー等、日ごろ研鑽を積まれた作品が、優しい色合いに華やかさを添えて展示されていました。

その中で、目を引いたのは山本篤江さんの鳥と花が描かれた絵更紗のペアクッションや、十カ月かけて織られたという四枚はぎのベッドカバー、そして大振りに生けら



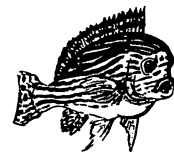
おもしろい 姉ちゃん

ボキヤブラリー

言葉は、とても難しいもの  
だと思えます。

普通の会話ではとてもシツカリしたおばさんに見えるNさん。精神的には非常に幼くて、自分の気持ちをキチンと整理していくことが苦手な人なので。

ところが、幸か不幸か 彼女には、  
// 理屈//なるものをひねり出すボキヤブラリーがあるため、彼女とお付き合っていると、こちらまで揺れる気持ちの間を右往左往させられます。  
大人になりたい自分と、子どもの



ように誰かに甘やかしてほしい自分の間を歩きつ戻りつ、その場限りの嘘になってもいいから、さまざまな要求を出して来ます。

彼女にもわからない、本当に彼女に必要なものを、彼女の言葉に惑わされずに、搜していく作業は難しく、自分に自信を失くし、何もかもを放り出したくなる時があります。

田 淵 美登利

れた彼岸桜とラッパ水仙。それらの大作は、山本さんの人柄が滲み出ている、優しさとお爽やかさがあふれていました。

販売コーナーでは、絵更紗や機織り作品が用意されており、お買い物も楽しむことができました。



サロン隣組ニュース

■「ウイズ東淀川」

○第5回「ウイズ東淀川の出会い」  
 日時・3月18日(土) 午後1時～3時  
 場所・東淀川会館3階(エルベタ・軌道付前)  
 内容・ハンディキャップの  
 ある人もない人も登山を  
 講師・和田菊博氏(山と友の会)  
 会費・なし  
 問い合わせ先・☎06-340-3082  
 (鈴木昭二)

■「サロン淀川」

○サロン淀川3月の出会い  
 日時・3月19日(日)  
 午後1時30分～3時30分  
 場所・淀川区民センター3階第1会議室  
 [大阪市淀川区野中南2-1-5  
 ☎06-304-9120]  
 内容・「その時、あなたは…！」  
 災害ボランティアを通じて  
 講師・窪田新一氏(サロン淀川代表)  
 会費・なし  
 問い合わせ先・☎06-306-2900  
 大阪市淀川区社会福祉協議会  
 ボランティア・ビューロー

あと1年



サロンができて十年

春は、別れと出会いの季節とも言われていますが、<サロン・あべの>は来年3月で満10年を迎えます。季節の移り変わりに何かを期待しながらその時々、出会いを楽しみながら各々の想いを交わしあえる<サロン・あべの>でありたいと希いながら、季節とともに歳月を重ねてまいりました。

その歳月を確かなものとして示してくれるのが、サロン紙と住所録。出会いの中の別れもありましたが、サロン活動もそれだけ年輪を重ねている証しかもしれません。

「出会い ふれあい 助け合い」初心忘れず、これからも多くの皆さまと幅広い出会いをしていきたいと希っています。

感謝します

朗読テープのご案内  
 山本敏子さんのご協力で、Aサロン・あべのV紙一〇四号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一〇四号の分があります。五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵川勝彦)の朗読テープもあります。いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。  
 (☎〇六九二一〇二八)

カンパ、切手、葉書、封筒、お菓子、ビデオデッキ、冊子等のご寄贈。  
 一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございます。  
 伊賀一幸、石田 律、植松菊雄、大和田弓子、岡 賀寿子、加賀谷 正、金子花江、木口久子、斉藤文子、城 みさを、秀 翠、竹村定子、藤井さゆり、堀田ゆかり、丸山貞子、森 芳江、山田絹代、山梨徳治、山野莊一、山本鈴子、(匿名二名)

〇二月のカンパ 金二〇、〇〇〇円

# <サロン・あべの>の本▶ BOOKS

書 名	著 者	出 版 元
恐竜の子「コモド」のたび	篠原綾子	創本工房
信濃路はるか(光明養護学校の学童疎開を記録)	光明養護学校の学童疎開を記録する会	田研出版株式会社
未知の記憶(絵本)	中川勝彦	ベガミュージックサービス
ジョナサンのニッポン日記 ~HIV感染者との共生を考える~	ジョナサン・スウェン	大月書店
セルフヘルプ運動と ソーシャルワーク実践	岩田泰夫	
ほんの少しだけ神に近い部分	岡知史	大阪市ボランティア協会
クローさんの愉快的苦労話	エーバルド・クロー	ぶどう社
隊兵記 ~兵隊生活の太平楽なひととき	猿田博	
安倍晴明とその周辺	猿田博	
恋と歌に生きた 王朝時代の女流歌人たち	猿田博	

○<サロン・あべの>にご寄贈いただきました単行本が上記の様に新しく追加されました。  
 多くの皆様にも読んでいただけたらと思います。  
 ご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。  
 〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. ☎06-691-1028. (冨田慶子)

**FROM EDITOR** 編集後記

「かるた」の輪がどんどん広がっています。阿倍野の人から、お友だちにあげるんで、と、まとめ買いの電話がありました。西成の人からは、父が見てなかなかおもしろい、ぬくうなったら母と散歩がてら歩いてみようかと楽しみにしているようです、と、葉書ももらいました。春よ、来い。「かるた」の春が待たれます。 (石)

1冊100枚綴 150円



## サロンの一筆箋

手紙を書くというと、どうしても構えてしまって・・・という人、贈り物をする時や、本や写真を送る時などにひと言添えたい場合、便利なのがこの一筆箋です。

文字通り「一筆」を書くための小さな便箋なのです。

ゆっくりといねいに書く時間がなくても、これがあれば一番に伝えたい「ひと言」をすぐに添えることが出来ます。

「生きた言葉」が伝わります。

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.105[`95. 3.18 発行] 定価¥100。

代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先；冨田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F

TEL 06-719-8212 FAX 06-719-8213